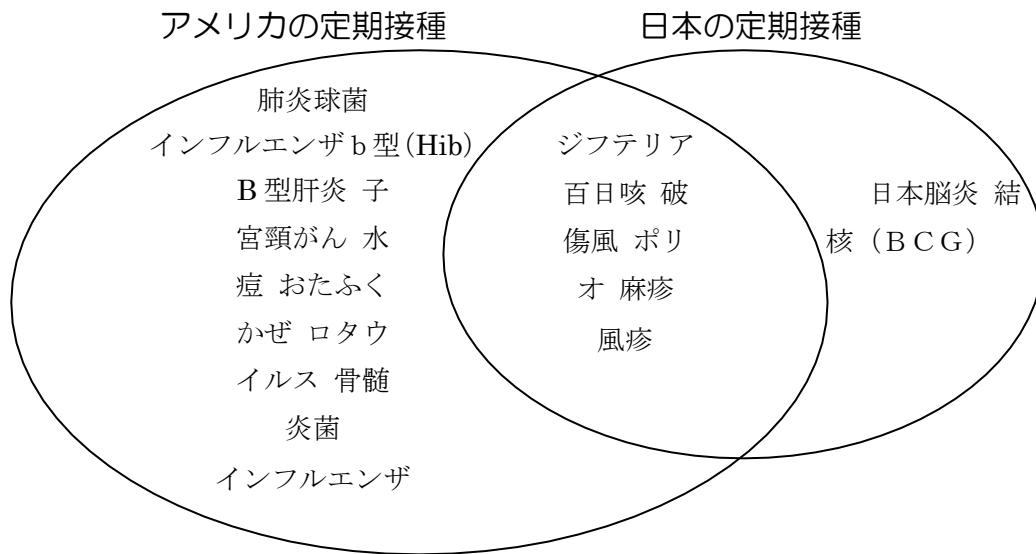


最近の乳児の予防接種

ここ数年前から乳児の予防接種の種類が増えています。ワクチンをしておけばかからずにはすむ病気が種々あるのです。ワクチンで防げたはずの病気でワクチンを接種しなかったが為に健康を損ねたり、髄膜炎・脳炎・肺炎・重症下痢・腎炎・心筋炎・がんなどの不測の状況を引き起こし死亡する事もあるのです。

ワクチンで防げる病気に対して、WHOから「どんなに貧しい国でも実施するべきものである」と勧告しています。が、日本の予防接種制度は先進国から大きく遅れているのです。日本で定期接種とされているのは8種類のみですが、アメリカでは15種類が定期接種となっています。



このうちWHOではHibワクチン・小児肺炎球菌ワクチン・B型肝炎ワクチンは病気の重篤度からどんなに貧しい国でも定期接種とし、国民を守るべきであると勧告していますが、わが国では小児肺炎球菌・水痘・おたふくかぜ・B型肝炎に対するワクチンは任意接種となっています。そのため、これらのワクチンの認知度が低く、接種率が悪いのでアメリカに比べ病気の発症率リスクが数十倍～数千倍と高くなっています。やっと日本の厚生労働省も子宮頸がん・インフルエンザb型(Hib)・小児肺炎球菌・水痘・おたふくかぜ・成人用肺炎球菌・B型肝炎の7種類について>予防接種制度の改正法案の検討を始めました。一日も早く定期接種になることを期待します。

当院ではDPT・IPV(ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ)・DT・MR(風疹、麻疹)・日本脳炎の定期接種以外に子宮頸がん・インフルエンザb型(Hib)・小児肺炎球菌・水痘・おたふくかぜ・成人用肺炎球菌型肝炎・ロタウイルス等を行っています。生後2ヶ月から接種開始のものもありますので、是非生ヶ月になる前からご相談に来ていただき、しっかりワクチンのスケジュール立てて、もれなく接種するようにしましょう。大事な日本の宝である子供達守り育てていきたいと思っています。